

2026年度関西大学対抗テニスリーグ戦 一般注意事項の主な変更点について

①ヒートルールとトイレットブ레이크中のコーチングについて

ヒートルールが適応されている場合のファイナルセット開始前の10分間の休憩では**コーチングは禁止とする。（ベンチコーチも含む。）**しかし、**残りの120秒間はコートに戻った場合、ベンチコーチからのコーチングを受けることが出来る。（セカンドセット終了後から8分間はコーチングが出来ません。）**

②連呼・歌応援について

連呼と歌応援については、**試合前の20分間プラクティスと5分間プラクティスのみとする。**チェンジコートの間やセット間で連呼や歌応援をしないように注意してください。

理由：全日本大学テニス王座決定試合のルールに合わせるため。

③コート内応援について

左右に隣接するコートで試合を行っていない場合のみ、コート内応援を行ってもよい。コート内で応援を行う場合は隣のコートの**センターライン**より近づいて応援してはならない。

④没収試合について

15分以上遅刻した場合、該当する試合を没収とする。

⑤救急車での搬送

2部校以下のリーグで救急車で搬送される試合があった場合、状況把握のために、緊急連絡先に必ず連絡をする。

※HPに掲載

⑥結果報告の方法について（2～5部）

- ・各対戦のホーム校の質疑権所有者（代理でも可）が当日中にライングループにて報告すること。
- ・雨天での順延や雨天・日没等のサスペンドの際も結果報告をすること。
- ・結果報告は型通りに送ること。

⑦ヒートルールでの中断に関して

- ・ヒートルール適用基準が突破している場合、2から5部の大学は質疑権同士で話し合い、試合の中断を検討しても良い。
- ・温度計がある大学のコートは気温が下がったことを確認し再開する。無い大学は一般注意事項に載せているWBGTのサイトから確認する。または学連に相談をする。

⑧アンチドーピングに関して

ドーピングは、フェアプレーの精神に反する行為であり、スポーツの健全性を損なうだけでなく、ドーピングの行為を行った選手自身の精神や肉体をも危険にさらす行為である。

ドーピングは以下の理由により禁止されている。

- ・スポーツの価値を損ねるため。
- ・アンフェアであるため。
- ・選手の健康を害するため。
- ・社会悪であるため。（青少年への悪影響を与える）

※ルール講習会では問題ないと説明したが、**今大会では芍薬甘草湯も禁止**とする。
禁止物質の服用が発覚した場合、該当する試合を没収する。

⑩MTOについて（2～5部）

・MTOを取れるかどうかの判断はSCUが行う。分からない場合は大会ディレクターに連絡をすること。

⑪順位の決定について

・5部リーグ決勝トーナメントで引き分けの場合や、リーグ戦において2チームが同率かつ直接対決で引き分けの場合、シングルス1の直接対決の結果で順位を決定する。
・怪我などによるリタイアの場合は、勝者はリタイアの後、残りのゲームをすべて勝ったとしてゲーム数を記録し、敗者はリタイアするまでに取得したゲーム数を記録する。
（ルールブックP.116）

⑫大会出場および登録規約について

出場資格は関西学生テニス連盟登録選手かつHPに掲載されている「[大会出場および登録規約](#)」に認められた者とする。ただし、**今年度のリーグ戦のみ**、3部以下に所属する大学は第4条の条件を満たさずとも出場を可能とする。